

燃焼器具の火災事例

みなさんは暖房器具の点検や清掃をまめに行っていますか！？点検や清掃を怠ってしまうと埃が原因で火災が発生します。

また、異常燃焼により一酸化炭素中毒を引き起こす可能性があります。

●燃焼器具によって火災になった事例を紹介したいと思います。

事例 1

ストーブに布団が接触して出火した火災

電気ストーブを点けたまま寝込んでしまい掛けていた布団がストーブに接触し出火



事例 2

ストーブに衣類が接触して出火した火災

洗濯した衣類を乾かそうとストーブの上に吊るしていたところ、ストーブに落下し出火した。



事例 3

使用中のストーブに給油したことから出火した火災

石油ストーブを消さないままカートリッジタンクに給油し口金（キャップ）を完全に閉めないでストーブにセットしたため口金（キャップ）が外れ漏れた灯油に着火し出火した。

以上、3事例の火災を紹介しましたが、みなさんが日頃から気を付けている事だと思いますが、「忘れてしまった」や「ついうっかり」といったことがあると思いますので、寝るとき、外出する際はスイッチを切り、コンセントを抜くことを心がけましょう。また、カーテンや衣類、布団などのそばで使用する事がないように注意しましょう。

一酸化炭素中毒事故に注意

石油ストーブ、ガスストーブ、ファンヒーターなどの暖房器具は、室内の空気を使って燃焼し、排気ガスを室内に出す仕組みになっているため、換気をしないまま使用を続けると室内空気が汚染されます。

室内で使用する時には、定期的に空気を入れ換えることが必要であるため、1時間に1回、およそ5分程度の窓を開けるか換気扇を回すなどしてこまめに換気するよう心がけましょう。

ちょっとしたことが大変なことに…

